

■平成27年度第3回（第245回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成27年5月27日（水） 午前11時35分～午後0時5分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、木下副市長、本間副市長、水道事業管理者、教育長、技監、都市戦略本部長、総務局長、財政局長、総合政策監、都市局長

【議 題】（3）与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープランの策定について

< 提 案 説 明 >

「与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン」を策定するため、都市局から次のような説明があった。

- ・ 本プランについては、平成24年2月定例会において、中央区役所等を中心としたまちづくりの事業を図ることをより一層求める決議を受けて、平成25年3月より、学識経験者等で構成するあり方懇話会を計4回開催し、地域資源の活用等、多くの意見を頂いた。
- ・ また、平成25年12月には条例に基づき、学識経験者、関係団体代表者、公募市民から構成するまちづくりマスタープラン策定委員会を設置し、素案の策定に向けて議論を行ってきた。
- ・ その他にも、ワークショップの開催、市民アンケートや市民説明会などにおいて、多くの市民から御意見を頂いた。
- ・ 本プランの対象は、与野本町駅を中心として、主要な幹線道路に囲まれた約280ヘクタールの地域であるが、この地域では地域資源や望ましい住環境が形成されているので、それを生かしつつ公共施設の再編なども進め、持続可能なまちづくりの展開が求められている。
- ・ そこで、本プランの目的として、地域と行政が当該地区のまちの将来像とまちづくりの方針を共有し、住宅地の持続可能なまちづくりを協働で推進するためのモデルケースとしていくものである。
- ・ 本プランにおける当該地区の「まちの将来像」を『地域の資源とふれあい、多様な世代が集い・暮らす魅力的なまち』と位置付ける。また、まちづくりは量的な拡大より質的な向上に重点を置く必要があることから、「地域の特性を生かす」「今あるストックを上手に使う」「地域主体の持続可能な仕組みづくり」の3つを基本的な考え方として、まちづくりを進めるものである。
- ・ また、「ここに住みたい・住み続けたいまちとを感じる魅力的な住宅地」を形成することが求められていることから、「利便性」「安全性」「快適性」「固有性」「持続性」の5つの要素が重要視されるものと考え、まちづくりの基本的な考え方を踏まえた上

で、5つのまちづくりの方針を定めた。

- ・ このまちづくりの方針毎に、まちづくりの取組を展開する。方針1では、住民の暮らしを支える駅へのアクセス性や、公共施設のサービス水準の向上など、「暮らしやすいまち」を目指した3つの取組となる。
- ・ 方針2では、洪水や延焼火災などの災害リスクの軽減を図るとともに、交通事故の危険個所の改善など、「安全性の高いまち」を目指した4つの取組となる。
- ・ 方針3では、ゆとりある住宅地の街並み、歩きたくなる道路、訪れたいくなる公園や広場の創出など、「居心地の良いまち」を目指した3つの取組となる。
- ・ 方針4では、地域の歴史を残す本町通りや、多くの人が訪れる芸術劇場や公園を生かしたまちづくり活動の展開など、「与野本町らしいまち」を目指した3つの取組となる。
- ・ 方針5では、地域主体のエリアマネジメントや公共施設マネジメントなどの展開を図り、まちづくりに参画する人々の輪を広げるなど、「みんなで育てるまち」を目指した3つの取組となる。
- ・ 本プランでは、まちの将来像の効率的な実現を目的として、まちづくりの取組をパッケージ化した「リーディングプロジェクト（LP）」を6つ設定し、それぞれが相乗効果を持って進めていくものとする。
- ・ これらプロジェクトを一体的に推進することで、「与野本町に人が集まる拠点をつくる」とともに、集まった人々に与野本町の個性を伝え「与野本町の個性を高める」、そして与野本町の個性が住宅地のブランド化につなげ「身近な地区を守り育てる」、最後に住宅地のブランドに惹きつけられた人たちが集まるという、好循環なサイクルが期待できるものである。
- ・ LP1では、さらに細分化しプロジェクト①として、中央区役所周辺の公共施設再編と空間のリニューアル、②として、与野中央公園整備によるみどり拠点の強化、③として、与野本町駅周辺の利便性の向上、これら3つの拠点機能を高めるプロジェクトを連動させながら推進するとともに、人々が集まる一体的な拠点づくりを目指す。
- ・ LP2では、与野本町小学校の北校舎等の建て替えに伴い複合化を検討するものであり、昨年度までに地域住民と機能配置に関するワークショップ等を行った。
- ・ LP3では、本町通りの沿道にある未活用の空間を活用して、歩行者や自転車の安全性を高めつつ、街並みルールづくりを進め、「歴史のまち」としての魅力や賑わいの創出を目指す。
- ・ LP4では、県内でも有数の文化芸術の拠点であるさいたま芸術劇場と地域が連携したまちづくりを進め、「芸術のまち」としてのイメージアップを図るとともに、地区内外から多くの人々が訪れ、交流できる場の形成を目指す。
- ・ LP5では、当地区の防災や景観などの身近な住環境に関する課題を解決することにより、住民が“ずっと住み続けたい”と感じ、転居を考えている住民からも選ばれる魅力的な住宅地を目指す。
- ・ LP6では、安心して歩ける散策路や生活道路を整備して、拠点間の歩行ネットワークを形成し、高齢者や子育て世代が健康的に歩いて暮らせる住環境の形成を目指す。
- ・ このまちづくりを着実に進めるための取組として、地域の住民、事業者、行政など

多様な主体が協働してまちづくりを進めていくことが望まれるため、地域が主体となる「まちづくり協議会」を立ち上げに向けて検討する。さらに、地域の良好な環境や価値を維持・向上させるため、この協議会をエリアマネジメントに取り組む組織に発展できるよう、行政として支援を行う。

- ・ 一方、本市の体制としては、リーディングプロジェクトの推進等を図るため、プロジェクト毎にリーダー部局を設定し、そのリーダーは各所管と連携を図り、各施策の進捗を把握しながら必要な施策を進め、地域と行政の取組の進捗状況を共有したいと考える。
- ・ 今後、本プランの策定に向けて、7月にパブリック・コメントを実施し、その後、意見を取りまとめた上で、8月頃に策定する予定である。

< 意見等 >

- ・ 本市には、環境未来都市を目指すなど、まちづくりの方針がある。プランの推進にあたっては、住宅地にとって環境問題は大きな問題でもあるので、環境部局と推進する体制を是非とって欲しい。

→ 具体的な取組を実施していく中で、御指摘の点は取り入れていきたい。

- ・ 安全面について、通学路などに関してはどのようなになるのか。

→ 本プランを進めていく上で、ゾーン30事業を所管する建設局など担当部局に必要な事業を要請していくこともあると考える。

- ・ 本町通りの蔵造などを生かしたものをプランの中に位置付けられないか。環境や景観について、本町通り辺りを配慮した方がいいのではないか。

→ 残されているところが限定的であり、市側から提案しないと難しいが、提案はしていきたいと考える。

- ・ プランの内容としては良くできていると思う。これまで、住宅地を中心として、しっかりと網羅的に作成されたマスタープランはないのではないか。今後は地域のエリアマネジメントへ繋がるよう実行段階が大事である。

< 結果 >

- ・ 都市局発議の与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープランの策定については、了承とする。

< 会議資料 >

(資料1) 与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン(案)について

(資料2) 与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン(案)

(資料3) 与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン(案) 概要版